

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	総合演習 II		
担当者(Instructors)	高木 靖彦	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)
この1年間に、ChatGPTをはじめとした、生成AIと呼ばれる、学習したデータを基にテキストや画像などのコンテンツを生成するAI（人工知能）が急速に実用化されてきました。その高い有用性のために、あたかも万能であるかの誤解や、「AIは神か悪魔か」といった極端な議論も生じています。しかし、学習していない情報には対応できないといった幾つもの限界があります。また、著作権や倫理面などで様々な問題点を抱えています。この演習では、実際に生成AIを使ってみながら、それらの問題点について考えていきたいと思います。

■授業形態・授業の方法(Class form)	
授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	各自が生成AIに対して質問をして、その回答を評価するという実践的な方法で理解を深めていく演習とする。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	はじめに	前期・総合演習Iの内容をふり返り、後期・総合演習IIで行うことの概要を考える。	☐
第2回	fireflyを使かう準備	アカウントが作成されていない場合はアカウントを作成するなどAdobe社の画像生成AIであるfireflyを使えるようにする。	☐
第3回	BeingChatで画像生成を行う準備	Microsoft社の画像生成AIであるDALL-E3を使って画像作成ができるように準備する。	☐
第4回	DALL-E3を使ってみる	BeingChatの中でDALL-E3を使って画像生成を行い、生成AIで画像を作成する実習を行ってみる。	☐
第5回	fireflyを使ってみる	fireflyのwebページの中でラスター画像の生成を行い、画像を生成AIにより作成する実習を行ってみる。	☐
第6回	PhotoshopでfireFlyを使う	Adobe Photoshopの中でfireflyを使って、ジェネレーティブ塗りつぶし機能などの特徴を考える。	☐
第7回	IllustratorでfireFlyを使う	Adobe Illustratorの中でfireflyを使って、ベクター画像を生成AIで作成する場合の特徴を考える。	☐
第8回	レポート作成(1)	前後期を通じた生成AIとのやりとりをまとめて生成AIに関するレポートをまとめる。	☐
第9回	レポート作成(2)	前後期を通じた生成AIとのやりとりをまとめて生成AIに関するレポートをまとめる。	☐
第10回	レポート作成(3)	前後期を通じた生成AIとのやりとりをまとめて生成AIに関するレポートをまとめる。	☐
第11回	発表会準備(1)	前後期を通じた生成AIとのやりとりをまとめて生成AIに関する発表ができるようにする。	☐
第12回	発表会準備(2)	前後期を通じた生成AIとのやりとりをまとめて生成AIに関する発表ができるようにする。	☐
第13回	発表会準備(3)	前後期を通じた生成AIとのやりとりをまとめて生成AIに関する発表ができるようにする。	☐
第14回	発表会	発表会で生成AIに関する発表を行う。	☐
第15回	まとめ	前後期を通じた生成AIとのやりとりを総合的に評価して、この演習での学習成果をまとめる。	☐

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

講義時間内に扱った問題の表現を変えて生成AIに質問してみて、どのような回答が得られるかをためしてみる。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

提出されたレポート等は、添削・採点の上で返却します。時間内に発表を行った場合は、相互に評価して改善していく過程をとります。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◇ 2019全学共通DP1	コンピュータとソフトウェアの基本を理解して、コンピュータを使えることができる。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019全学共通DP2	次々と現れてくる新たな技術やサービスには、常に負の側面があることを考えられるようになったか。また、いかに優れた最新技術にも限界があることを理解しながら使っていくことができる。
主体性	◆ 2019全学共通DP3	生成AIに対する質問の表現を様々に変えながら、最適な回答を得られるよう工夫することができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			100%	

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

原則として毎回課題を課し、それを評価する。その中には、講義時間内での発言、グループ作業への貢献なども含まれる。

■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	使わない	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	使わない	
2		
3		
4		
5		